

☼ 毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です ☼

～ 子どもの読書活動を推進しましょう ～

福岡市子ども読書フォーラム

11月30日（土）に、南区のアミカス（男女共同参画推進センター）で「福岡市子ども読書フォーラム」を開催しました。このフォーラムは、各方面で子ども読書活動に携わる市内8の団体・学校等の企画・運営により実施しています。

15回目となる今年は、子ども連れの家族や小・中学生など、600人近くが来場しました。どのブースも来場者が楽しむ工夫がしてあり、笑顔や歓声がたくさん見聞きされました。また、来場者が本を手に取り、親しんでいる姿が多くありました。

盛会だった当日の様子を報告します。



ほんかける

本×中学生=∞！

は むげんだい

～読み聞かせ+We ♥ Books+POP～（福岡市立中学校）

平尾、香椎第1、長丘、城南、吉塚、春吉の各中学校が、読み聞かせや紙芝居をしました。読み聞かせでは、聞いている人が絵本に引き込まれるような読み方に感心しました。また、POPは、周りをテープやフェルトペンなどで色をつけたり、絵を描いたりするなど、それぞれ工夫していました。



（読み聞かせをする中学生）



（POPを見る来場者）



（展示されたPOP）



ほんかける

本×中学生=∞！

は むげんだい

～工作コーナー+名作絵本レシピ～

（福岡市立中学校）

三宅、高宮の両中学校の美術部の生徒たちが、しおりやブックカバーなどの工作コーナーを担当しました。小さい子どもたちは、簡単に飾れるように事前に準備された材料を使って、中学生から優しく教えてもらいながら、笑顔で制作していました。小・中学生だけでなく、赤ちゃんを抱いたお母さんも、熱心にブックカバーを作っていました。



（ブックカバー作りを手伝う
中学生）



（しおり作りを手伝う中学生）



（赤ちゃんを抱っこしてブック
カバーを作るお母さん）



（大勢の来場者）



やってみよう！みてみよう！小学校図書館

（福岡市立小学校図書館教育研究委員会）

市内の小学校で読書月間や読書週間で取り組んだしおりづくり、ペープサート体験、小学校の先生のブックトークがありました。ペープサート体験では、先生からペープサートの動かし方を教えてもらい、お話や音楽に合わせて楽しそうに動かしていました。



（色紙に飾りをつけてしおりを作る女の子）



（ブックトークをする先生）



（わが子が演じる「はらぺこあおむし」のペープサートを見る親子）



（百科事典の「ポプラディア」を使い、解答を書く小学生）

※ペープサート：話の登場人物などを紙で作り、それを割りばし状の棒につけ、話の展開にあわせて動かす紙人形劇

※ブックトーク：あるテーマのもとに、一定の時間で、何冊かの本を聞く人に紹介すること



図書館を楽しもう！（福岡市総合図書館・各分館）

福岡市総合図書館・各分館の司書の人たちが、お父さんによるおはなし会やビブリオバトルなどを実施しました。ビブリオバトルの発表者は、中学生4名、司書2名の6名で、中学生もお薦め本をしっかり紹介し、最も参加者票を集めて優勝しました。お父さんによるおはなし会は、とてもたくさんの人が参加していましたし、なりきり絵本キャラコーナーでは、順番待ちができるほど大人気でした。



（堂々とお薦め本を紹介する中学生）



（「だるまちゃん と てんぐちゃん」の読み聞かせをするお父さんたち）



（「なりきり絵本キャラ」の衣装を着たわが子の撮影）



（「図書館員が選んだ100冊の絵本」とPOP展示）



YA(ヤングアダルト)BOOKコーナー

（福岡市総合図書館・各分館）

小学校高学年以上を対象にしたボードゲームやYA通信に紹介された本とそのPOPの展示がありました。ボードゲームのルールを聞き、小学生から大人まで楽しくゲームをしていました。



（ボードゲームのルールを優しく説明する中学生）



（展示されたPOPを見る来場者）

※YA通信：福岡市総合図書館や分館の読書相談員の有志が、中学生・高校生向けに作成しているお便りで、本の紹介などを掲載しています。



図書館のおはなし会がやってきた！

(福岡おはなしの会)

総合図書館でおはなし会をしている皆さんが、小さい子のおはなし会や大きい子のおはなし会、わらべうたであそぼう♪などを担当しました。

子どもたちの年齢に合わせたおはなし会だったため、参加した子どもたちは、みんな、お話(ストーリーテリング)や絵本の読み聞かせにすっかり夢中になっていました。また、わらべうたであそぼう♪は、子どもも大人もよく笑い、とても和やかな雰囲気でした。



(小さい子もしっかり見ている
パネルシアター)



(子どもも大人も夢中になる紙
芝居)



(ストーリーテリングで、話に
引き込まれる参加者)



(「わらべうたであそぼう♪」で、
子どもを高く抱え上げる参加者)



うちのひとのおひざにのって 赤ちゃんおはなし会 (ブックスタートボランティア)

市内各区で読み聞かせをしているボランティアの方々が、区ごとに時間を決め、読み聞かせやわらべうた、紙芝居などをしました。紙芝居では、小さい子どもたちは前の方に集まって見ていましたし、わらべうたは子どもも大人も楽しんでいました。



(絵本の前にきて、指さす男の子)



(手袋人形でわらべうた)



(タオル人形のパンダと遊ぶ)



(わらべうたで親子のふれあい)



お茶でほっとな交流を♪

(学校図書館よみかせボランティアネットワーク)

市内の学校図書館で読み聞かせのボランティアをしている方々が、読み聞かせ講座などで紹介した本や自宅などで読んでもらいたい本を美しく展示し、コーヒーやお茶を振るまっていました。椅子に座って子どもに絵本の読み聞かせをしたり、展示している絵本を読んだりしている親子の姿が見られました。



(「家庭で楽しむ読み聞かせ講座」
他で紹介した絵本などの展示)



(展示された絵本を読む親子)



(子どもに読み聞かせをする
お母さん)



(お茶やコーヒーを飲みながら
一休みする来場者)



みんなおいでよ！おはなしひろば

(福岡市公立保育所主任保育士会)

絵本の読み聞かせだけでなく、パネルシアターやエプロンシアター、折り紙あそびと
いろいろな催しで来場者を楽しませていました。



(パネルシアターを見る来場者)



(折り紙をする子どもや中学生を見守る保育士会の皆さん)



(展示された手袋人形で遊ぶ女の子)



本屋さんがやってきた！(福岡県書店商業組合)

書店商業組合が、読んでほしい本や絵本をたくさん用意し展示していました。親子で本を選び、
買い求めている人が多く見られました。



(展示された本や絵本を見る来場者)



生涯学習課の展示

生涯学習課が、小・中学校の新1年生へのおすすめ本やスタンバード文庫の説明を展示しました。



(小学1年生、中学1年生へのおすすめ本の展示)



来場者に人気の2つの催し

その1 《子どもたちに大人気のスタンバード》

教育委員会のキャラクター「スタンバード」は子どもたちだけでなく中学生にも人気でした。
「スタンバード」の姿が見えると、子どもたちが集まってきて、体に触ったり握手をしたりしていました。



(スタンバードと握手をする子どもと中学生)

その2 《楽しい景品》

シールラリーで5つのブースを回った人は、書店組合や生涯学習課が準備した景品をもらいました。



(山積みされた景品)



2月生まれの文学者



舟崎 克彦（ふなざき よしひこ）と「ぼっぺん先生の日曜日」

1945年2月2日 東京都中央区生まれ 2015年没

舟崎氏は、豊かな自然の中で幼少年期を過ごし、7歳で母を亡くしてから鳥類に強い興味を持ち熱中したそうです。

柔道部主将だった学習院大学を卒業後、不動産の鑑定評価という仕事で開発予定の山野を回る中、目に入る植物をすべて覚えるため、横浜までの通勤する往復時間に植物や博物関係の本を読むだけでなく、いつもポケットに図鑑をしのばせていました。その後、仕事で胃潰瘍になり、自宅静養で時間があつたので、「トンカチと花將軍」を妻と共著し、童話作家としてデビューしました。

「ぼっぺん先生の日曜日」は、それまでの作品のほとんどが夫婦共作だった舟崎氏が初めて一人で書いた作品です。作品が出版されなかったら自分の立場がないと思い、背水の陣で臨み、出版が決まった時には、あまりのうれしさに、食事時でもないのに目玉焼きを三つも作ってしまったそうです。

舟崎氏は、「今までにちょっとない作品」と言われるのが一番名誉と思っており、人生の中で自分しか書けない作品を残しておきたいというのが生き甲斐だったそうです。

作品は、「雨の動物園」（サンケイ児童出版文化賞、国際アンデルセン賞優良作品）、「あのこがみえる」（ボローニャ国際児童図書展子どもの本の部グラフィック賞推奨）、「悪魔のりんご」（日本絵本賞）、「ぼっぺん先生」シリーズ（山本有三記念路傍の石文学賞）などあります。

百田 尚樹（ひゃくた なおき）と「永遠の^{ゼロ}0」



1956年2月23日 大阪市東淀川区生まれ

百田氏は東淀川区の下町に生まれ、朝から晩まで外で遊ぶのが好きでしたが、父が大変本好きだったため、幼稚園のときはよく絵本を読んでいました。小学校では勉強せず、作文も全然ダメだったそうです。

引っ越した奈良の高校でも全然勉強せず、学校をさぼってアルバイトをしたお金でしょっちゅう映画館に通い、高校の終わりから大学に入学する頃は、将来映画監督になりたいと思っていました。

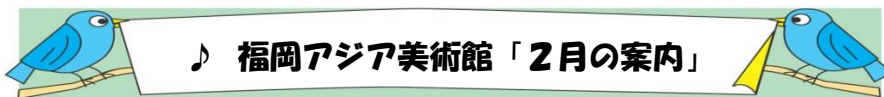
大学では、ボクシング部に所属し朝から晩まで練習ばかりして、本は10冊も読みませんでした。

大学を5年で中退した後、放送作家になったのは、在学中「ラブアタック！」という番組に常連で出演していたため、テレビのディレクターやプロデューサーから放送作家をやらないかと言われたからで、アルバイト気分を始めました。仕事は、昼や深夜の会議を2～3時間、週に2、3日するだけで暇な時間がとても多く、お金がなかったので本を読み始め、30歳くらいまでは年間200～300冊くらいと、いちばん本を読んだ時期でした。

29歳の頃、突然小説を書いてみようと思い、1年半ほどかけて原稿用紙2100枚の作品を手書きし、出版することを考えました。しかし、家庭の事情で出版できず、テレビの仕事を真剣にやりだし、40代までずっとテレビの仕事ばかりしていました。

「永遠の0」は、零戦に乗って命を落とした祖父の真実を現代の青年が探るという話です。50歳を目前にした時、「テレビは共同作業であり、ひとつの番組に自分がどれだけ関わっているのか数値化できない」など、いろいろ寂しく思いながら3ヵ月くらいで書きあげた作品だそうです。

作品は、「錨を上げよ」、「海賊とよばれた男」（本屋大賞）、「夢を売る男」、「影法師」などあります。



♪ 福岡アジア美術館「2月の案内」



* アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ

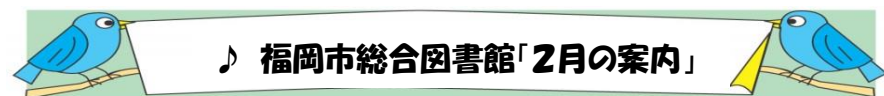
9日(日), 11日(火), 23日(日), 25日(火)

・時 間 11:30~12:00, 13:00~13:30

・場 所 7階「キッズコーナー」(申し込み不要)

* 絵本の展示

「鬼がでてくる絵本」(予定)のミニ特集を展示します。(閲覧のみ)



♪ 福岡市総合図書館「2月の案内」



* 毎月のおはなし会

1日(土), 2日(日), 8日(土), 9日(日), 15日(土)

16日(日), 22日(土), 23日(日), 29日(土)

・時 間 土曜日: 1日, 8日, 15日, 22日

14:10~14:25 赤ちゃん向けおはなし会

14:30~14:50 幼児向けおはなし会

29日

14:30~15:00 幼児以上向けおはなし会

日曜日: 2日, 9日, 16日, 23日

14:30~15:00 幼児向けおはなし会

15:15~15:45 小学生向けおはなし会

・場 所 「こども図書館 おはなしの家」

* こども図書館の本の展示

「冬の楽しいすごし方」に関する本を集め展示します。(貸出可)

☆ あとがき

今年の福岡市子ども読書フォーラムは市立高校が参加できなかったのですが、他の団体や小中学校が昨年以上に工夫した催しをしていました。3階のブースを担当した福岡おはなしの会は会場内だけでなく廊下から入口まで飾り付けをしていましたし、福岡市総合図書館・各分館は中学生と一緒にカードゲームを使った催しを、小学校の先生はブックトークをして読書フォーラムを盛り上げていました。

この日は、アミカスの館内が絵本や本でいっぱい、大人も子どもも笑顔でした。

発 行: 福岡市教育委員会 生涯学習課

電 話: 092-711-4655 FAX: 092-733-5538

図書館員のひみつの本棚 第 165回

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

今月は今年の干支である「ねずみ」が出てくる絵本です。

『トラブルフ バラライカにみせられたねずみ』

ジョン・バーニング／さく あきの しょういちろう／やく

童話館出版 2010 年 1500 円（税抜）

＜お勧め年齢＞

乳幼児——

低学年☆☆☆

中学年☆☆☆

高学年☆☆

中学生☆

高 校——

一 般——

（☆が多い年齢の子どもにお勧めです。）

＜本の紹介＞

ロシアの民族楽器バラライカに魅せられたネズミの物語。

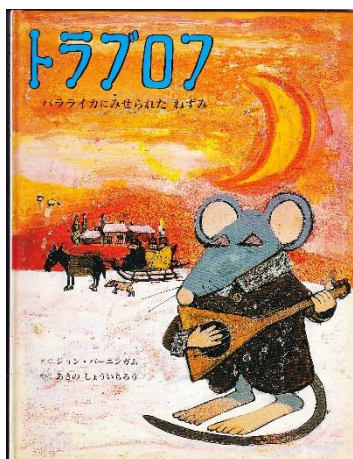
夜ごと宿屋で楽士の演奏するバラライカに耳を傾け夢中で聞いているねずみの男の子トラブルフは、木工職人のナバコフじいさんに自分用のバラライカを作ってもらいます。

ある晩、宿屋の片隅で熱心にバラライカを練習するねずみに楽士のおじいさんが気づきました。そして、おじいさんはトラブルフにバラライカを教えてくれるということです。しかし、楽士たちの旅立ちはその夜でした。おじいさんからどうしてもバラライカを習いたいトラブルフは、家族に黙って楽士たちの旅について行くことを決意します。

＜子どもに手渡す時のポイント＞

バラライカを知らない子どもも多いと思いますので、読む前に、表題紙の前のページにあるバラライカの絵を見せて説明してあげるとよいと思います。絵の下に説明文もついています。少し難しいので年齢に合わせてかみ砕いて説明してあげてください。

この作品は『バラライカねずみのトラブルフ』（瀬田貞二／訳）の題で 1976 年にほるぷ出版より出版されています。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。